

追悼・寄贈図書リスト・月報だより

いろいろと他人にも説明してくれるので、運転できないくせに、私も理論だけは詳しくなった。次に動きだすときの準備をして止めておくため、他の車と止める向きが違っていたり、車輪が発射時に都合よい方向に向けてあった。

準備のよさは研究でも同じで、考えついた時にすぐ実験できるよう幅広く準備するので、部屋はついつい物があふれた。

〈坂田さん語録〉

- ・真実とは、事実を貫いて流れているものだ。時間には、質がある。高度な仕事や研究には、「質の高い時間」が必要である。
- ・独創的な仕事は、独創的な生き方から生まれる。
- ・豊かな感性から独創性が生まれる。まずは感性

を豊かにせよ。

- ・「だろう」が3回重なると、技術では破壊に通じる。
- ・学校の試験は90点とれば優でも、技術ではいつも100点が要求される。

〈最後に〉

何しろ元気な人で、何事も楽しくやるので、周りはいつものにぎやかであった。入れ替わり立ち代わり、いろいろな人が彼の元を訪れていた。

いつまでも、悼んでいるわけにはいかないのだが、この静けさに慣れるまではどうも時間がかかりそうだ。

和田節子（電気通信大学）

寄贈図書リスト

Asymmetrical Planetary Nebulae, Amos Harpaz & Noam Soker, Institute of Physics Publishing, 研究

会収録, B5判, 306p
ゼミナール宇宙科学, 戒崎俊一, 東京大学出版会, 教科書, B5判, 166p, 3296円

月報だより

会務案内

日本天文学会早川幸男基金募集要項

日本天文学会 早川幸男基金（若手海外学術研究援助基金）内規に基づき*、海外学術研究に対して援助を希望する者を募集（1995年度第2期）致します。

1. 援助金総額 年間約150万円
2. 援助件数 年間数件程度
3. 募集対象期間 1995年10月1日～12月31日の間に日本を出発するもの。また前回の応募時に間に合わずすでに渡航してしまった場合はその事情説明をつけて応募して下さい。
4. 応募必要書類（A4紙に統一すること）、原本1部、コピー5部但し(7), (8)についてはコピー不要
 - (1) 応募用カバーシート（今月号次頁の応募用紙をA4に拡大コピーして使用する）
 - (2) 論文リスト
 - (3) 観測については、観測割当通知および観測提案の写しかそれに準ずるもの
 - (4) 国際共同研究については、渡航先の招聘状および

研究計画の概要

- (5) 研究集会参加については、当該研究会開催の主旨を説明する資料、プログラム、および応募者の寄与（口頭発表等）を証明するもの
- (6) 大学院生の場合、研究指導者の意見書
- (7) 航空運賃の見積書
- (8) 関連研究論文の写し（一編）

5. 応募締切 1995年9月10日

6. 決定時期 1995年9月下旬

7. 応募書類送付先

〒181 東京都三鷹市大沢2-21-1

国立天文台内

日本天文学会 早川基金募集係

*早川基金内規(天文月報第85巻第12号参照)による援助対象資格は「日本天文学会会員で、原則として35歳以下の天文学研究者であって、この基金以外の海外渡航費（滞在費を除く）の援助を受けない者。」です。1995年度はこの後12月、3月の10日締め切りで募集を行う予定です。応募希望者は書類等の準備をしてください。

早川基金応募カバーシート

(本頁をA4に拡大コピー・記入して、応募用紙の最初に添付して下さい)

氏名	(会員番号：)		生年月日	19 年 月 日(歳)
所属			身分	大学院(修士・博士)課程 年生
援助希望 の内容	(観測・国際共同研究・国際研究集会) その他 []			研究生・学振 (PD・DC)
渡航期日	年 月 日～ 年 月 日			(常勤・非常勤)職員 [職名：] その他 []
渡航期間：	渡航場所	渡航費見積金額：		円
研究略歴				
渡航歴および旅費の出所：				
渡航の主旨：				
国際研究集会についての寄与：1. 口頭発表, 2. ポスター, 3. その他 []				

日本天文学会 1995 年春季年会記事

1995 年春季年会は 3 月 23 日(木)から 25 日(土)の 3 日間、東京学芸大学新 3 号館にて、5 会場併行して行われた。

講演数は口頭(10分)：207、口頭(3分)+ポスター：94、ポスター：48、Post-deadline papers：3 であった。年会参加者数は 534 名にのぼる。

今年会は、併行会場数を増やして、口頭発表を充実させる、試行としての最後の年会にあたり、会場の都合により会期を 3 月に移しての開催となった。水野・佐藤両先生をはじめとする東京学芸大の教職員、学生の方々の積極的な運営によって盛会になり、昨秋の年会からの期間が短かった割には多くの参加者をえることができ、大変感謝している次第である。

今年で年会講演発表形式に関する試行は終了し、年会実行委員会、理事会等で、最適な方法に結論を出したいと考えている次第である。

口頭発表の各セッションの座長は次の方々をお願いした。

会場	23 日		24 日		25 日	
	前	後 1	後 2	前	前	後
会場 A	桜井	末松	黒河	中島	平山	吉田
会場 B	森田	村上敏	唐牛	小林(行)	黒田	—
会場 C	大橋	井上(一)	田原譲	谷口	森川	杉之原
会場 D	尾崎	中田	常深	長瀬	花輪	林(正)
会場 E	北本	長谷川(哲)	川口建	吉井	戎崎	満田

◎研究奨励賞招待講演

今年度の研究奨励賞の招待講演は、宇宙科学研究所の中川貴雄氏に「遠赤外線分光観測システムの開発とそれによる銀河系 [CII] スペクトルサーベイ」というタイトルで講演をお願いした。SFU/IRTS の打ち上げ、追跡にお忙しい中、駆けつけていただいたの講演となった。

◎記者会見

年会に先立ち、3 月 22 日(木)18 時より年会会場で報道関係 3 社に対して記者会見が行われた。話題としては以下を挙げた。

小山勝二(京大理)

関連講演：N 08 w 「あすか」による南の冠座星形成領域の観測

鈴木文二(三郷工技高)、渡部潤一(国立天文台)

関連講演：R 01 w 彗星衝突痕の偏光撮像観測

また、公開講演会、フォーラムについての紹介も行った。

◎展示コーナー

賛助会員のために設けられたこのコーナーには今回、1 社の参加があった。

◎天文教育フォーラム(天文教育普及研究会共催)

3 月 25 日(土)13 時～14 時

縣 秀彦(東大中高)、鈴木文二(三郷工技高)

祖父江義明(東大理)、山県朋彦(文部省)

「いま、学校では天文学をどう教えているか？」

25 日(土)の午後のセッションで開催され、約 80 名が参加して上記フォーラムが開かれた。詳しくは天文月報 6 月号 267 ページを参照下さい。

◎公開講演会(天文博物館五島プラネタリウム協賛)

3 月 25 日(土)19 時 20 分～20 時 30 分

長谷川 均(アステック)「彗星の木星衝突で何が起きたか？」

3 月 26 日(日)19 時 20 分～20 時 30 分

長谷川哲夫(東大理)「あなたも銀河体験——電波で探る星の誕生」

春季年会閉会の当日と翌日曜日、何れも協賛いただいた天文博物館五島プラネタリウムの投影終了後、19 時 20 分より、公開講演会が開催された。講師の両長谷川先生には、それぞれの講題で約 1 時間ずつ、分かりやすいお話をしていただいた。両日も 50 名前後の参加者が熱心に講演を聴き、多くの質疑応答が交わされた。

◎その他

年会会期中に、評議員会、理事会、総会が開かれた。また会員による自主研究集会は計 11 集会にのぼり、講演時間の合間を縫って開催された。

◎懇親会

第 2 日目の総会終了後、第二むさしのホールで、懇親会が開かれた。生憎の雨模様と、年度末のせいもあり、参加者が 125 名となってしまったのは、残念であった。

総会記事

平成 7 年の通常総会は、3 月 24 日(金)15 時より芸術館にて開催された。会員 147 名が出席した。

議長：理事長 内田 豊

進行：庶務理事 渡邊鉄哉

総会次第

1. 開会
2. 天体発見賞贈呈の件
3. 平成 6 年度会務報告
4. 平成 6 年度会計報告及び会計監査報告
5. 平成 7 年度予算案
6. 次期理事長、副理事長の承認理事指名、委員委嘱、会計監査委嘱
7. 年会の開催方法について

8. 定款の改訂について

9. その他

◇天体発見賞贈呈の件

評議員会の議決に基づき、以下の8件に天体発見賞・天体発見功労賞を贈呈する件が提案され、満場一致で承認された。

◎天体発見賞

1. 高見沢今朝雄 「高見沢彗星 1994 i の発見」
2. 桜井幸夫 「いて座新星 1994 No.2 の発見」
3. 多胡昭彦 「へびつかい座新星 1994 の発見」
4. 中村正光 「中村一西村一マックホルツ彗星 1994 m の発見」
5. 串田麗樹 「NGC 2782 超新星 1994 ak の発見」
6. 高見沢今朝雄 「わし座新星 1995 の発見」
7. 串田麗樹 「NGC 2962 超新星 1995 D の発見」

◎天体発見功労賞

1. 西村栄男 「中村一西村一マックホルツ彗星 1994 m の発見」

引続き表彰式が行われ、理事長より表彰状・メダルが手渡された。

◇平成6年度会務報告 [付録1]

庶務理事より平成6年度の会務報告があり、原案通り承認された。

◇平成6年度会計報告及び会計監査報告 [付録2]

会計理事より平成6年度の会計(仮)報告があり、会計報告並びに会計監査報告は秋季年会時に臨時総会を開いて行う旨の説明があり、原案通り了承された。

◇平成7年度予算案 [付録3]

会計理事より平成7年度予算案の説明があり、原案通り了承された。

◇次期理事長に杉本大一郎氏、副理事長に土佐誠、石黒正人の両氏を推薦し承認された。

◇理事長から次期理事、委員及び会計監査の指名推薦があり承認された。ただし、研究奨励賞選考委員に関しては、分野の偏りがあるとの意見が提出されたため、再度検討することとした。

◇質疑応答

年会の開催方法に関して、試行期間が終了し、次期年会実行委で最終結論を出したい旨の説明があり、多くの建設的な意見が交換された。これらの意見、またアンケート結果の意向を踏まえて、よりよい形態を採用する予定である。

定款改訂に関するWGの報告がなされ、定款の改訂に向けて今後広く会員の議論を喚起してゆく旨が説明された。

(付録1)

社団法人日本天文学会 平成6年度会務報告

平成6年度は本会創立87年度、社団法人設立後61年にあたる。

ア) 出版

1) 欧文研究報告 (Publications of the Astronomical Society of Japan)

第46巻 第2号 123-234頁 L. 11-36

平成6年4月25日 (1500部)

第46巻 第3号 235-318頁 L. 37-130

平成6年6月25日 (1550部)

第46巻 第4号 319-440頁 L.131-166

平成6年8月25日 (1550部)

第46巻 第5号 441-526頁 L.167-194

平成6年10月25日 (1550部)

第46巻 第6号 527-702頁 L.195-202

平成6年12月25日 (1550部)

第47巻 第1号 1-116頁 L. 1-4

平成7年2月25日 (1550部)

2) 天文月報

第87巻第4号から第88巻第3号まで毎月発行、各号3200部(7月号3400部)。

3) 予稿集

1994年春季年会 A4版 133頁

1994年秋季年会 A4版 128頁

1995年春季年会 A4版 109頁

イ) 年会

1) 1994年春季年会

ア) 記者会見: 5月16日(月) 吹田市文化会館メイシアター 報道機関: 7社

イ) 年会

1994年5月17日~19日(火~木)吹田市文化会館メイシアター

口頭発表: 118, ポスター+ショートプレゼンテーション: 272, post-deadline papers: 8

年会参加者: 626名

ウ) 年会期間中のその他の催し

◇展示コーナー: 会場内ロビー, 参加: 3社

◇天文教育フォーラム「今、天文学で何が教えられるか?」

(天文教育普及研究会・共催) 参加者: 40~50名

◇懇親会: 同会場内, 参加者: 150名

◇公開講演会 5月20日18時45分 大阪市立科学館

宇宙の大規模構造 (大阪大学・池内 了)

- X 線天文衛星「あすか」(大阪大学・常深 博)
 エ) 研究集会: 10
- 2) 1994 年秋季年会
 ア) 記者会見: 10 月 11 日(火) 北海道庁別館教育庁
 記者クラブ 報道機関: 7 社
 イ) 年会
 1994 年 10 月 12 日~14 日(水~金) 北海道大学
 学術交流会館
 口頭発表(10 分): 117, 口頭発表(3 分)+ポスター:
 178, 口頭発表(3 分): 30, ポスター発表:
 56, post-deadline papers: 1
 年会参加者: 422 名
 ウ) 年会期間中のその他の催し
 ◇展示コーナー: 会場内ロビー, 参加: 1 社
 ◇天文教育フォーラム「今, 天文学で何が教えられ
 るか?」
 (天文教育普及研究会・共催) 参加者: 約 50 名
 ◇懇親会: サッポロビール園, 参加者: 220 名
 ◇公開講演会 10 月 15 日 14 時 北海道大学学術
 交流会館
 New Cosmology from HST (STScI・C.Norman)
 すばる望遠鏡が切り開く天文学(国立天文台・海
 部宣男)
 公開講演会(教育社 Newton 共催) 10 月 16 日
 14 時 多摩六都科学館
 星の誕生(名大理・福井康雄)
 New Cosmology from HST (STScI・C.Nor-
 man/大阪大学・池内了)
 エ) 研究集会: 7
- 3) 1995 年春季年会
 ア) 記者会見: 3 月 22 日(水) 東京学芸大学新 3 号館
 報道機関: 3 社
 イ) 年会
 1995 年 3 月 23 日~25 日(木~土) 東京学芸大学
 新 3 号館
 口頭発表: 207, ポスター+ショートプレゼンテ
 ーション: 94, ポスター: 48, post-deadline
 papers: 3
 年会参加者: 534 名
 ウ) 年会期間中のその他の催し
 ◇展示コーナー: 会場内ロビー, 参加: 1 社
 ◇天文教育フォーラム「いま, 学校では天文学をど
 う教えているか?」
 (天文教育普及研究会・共催) 参加者: 約 80 名
 ◇懇親会: 第二むさしのホール, 参加者: 125 名
 ◇公開講演会 3 月 25/26 日 19 時 五島プラネタ
 リウム(協賛)

- 彗星の木星衝突で何が起きたか?(長谷川 均・
 アステック)
 あなたも銀河体験—電波で探る星の誕生(長谷川
 哲夫・東大理学部センター)
 エ) 研究集会: 11
- ウ) 総会及び評議員会, 理事会
- 1) 総会
 平成 6 年通常総会
 1994 年 5 月 18 日 16 時~18 時 吹田市文化会館メ
 イシアター
 議長: 理事長 内田 豊
 総会次第
 1. 天体発見賞贈呈
 2. 平成 5 年度会務報告
 3. 平成 5 年度会計報告及び会計監査報告
 4. 平成 6 年度予算
 5. その他
 臨時総会
 1994 年 10 月 13 日 15 時~17 時 北海道大学学
 術交流会館
 議長: 理事長 内田 豊
 総会次第
 1. 天文学特別功労賞, 研究奨励賞の授与
 2. 年会の開催方法について
 3. 定款の改訂について
 4. その他
 平成 7 年通常総会
 1995 年 3 月 24 日 15 時 30 分~17 時 30 分 東
 京学芸大学芸術館
 議長: 理事長 内田 豊
 総会次第
 1. 天体発見賞, 研究奨励賞の贈呈
 2. 感謝状の贈呈
 3. 平成 6 年度会務報告
 4. 平成 6 年度会計報告及び会計監査報告
 5. 平成 7 年度事業計画並びに予算
 6. 次期理事長・副理事長の承認, 理事指名, 委員
 委嘱, 会計監査委嘱
 7. 年会の開催方法について
 8. 定款の改訂について
 9. その他
- 2) 評議員会
 1994 年 4 月 16 日 13 時 30 分~16 時 30 分 国立
 天文台講義室
 議長: 小平桂一
 議題:
 1. 総会提出議案について

2. 特別会計の取扱いについて

3. その他

1994年5月18日12時～13時 吹田市文化会館メシアター第一会議室

議長：奥田治之

議題：

1. 総会提出議案の確認

2. その他

1994年10月13日12時～13時 北海道大学学術交流会館

議長：加藤正二

議題：

1. 総会提出議案について

2. IAU 総会の体制について

3. その他

1995年3月4日13時～17時 国立天文台講義室

議長：古在由秀

議題：

1. 総会提出議案について

2. 定款の改訂について

3. IAU 京都総会について

4. 新理事長・副理事長の推薦について

5. その他

1995年3月24日12時～13時 東京学芸大学20周年記念館

議長：藤本光昭

議題：

1. 総会提出議案について

2. その他

3) 理事会

1994年5月19日12時～13時 吹田市文化会館メシアター

議事

1. 年会について

2. その他

1994年7月10日13時30分～16時30分 国立天文台講義室

議事

1. 秋季年会

2. 95年春季年会以降の予定

3. 研連委選挙

4. その他

1994年10月14日12時～13時 北海道大学学術交流会館

議事

1. 平成6年秋季年会について

2. 来春季年会

3. 年会時期変更に伴う予算措置について

4. 来年度秋季年会以降の予定

5. 早川基金中間報告

6. 内地留学奨学金委員会報告

7. IAU 総会について

1995年1月14日13時～17時 学士会館本郷分館

議事

1. 平成7年春季年会について

2. 定款の改訂について

3. 次期理事会の体制について

4. 総会提出議題について

5. IAU 総会について

6. 秋季年会以降について

1995年3月25日12時～13時 東京学芸大学20周年記念館

議事

1. 春季年会について

2. 理事会の引継ぎ

3. その他

エ) 委員会、ワーキンググループなど

日本学術会議天文学研究連絡委員会委員の選挙

1) 第16期学術会議天文研連委員の候補者の選挙を行った(7月)。

欧文研究報告編集

2) 文部省から平成6年度研究成果刊行補助金として428万円の交付決定通知があった。(8月)

天文月報編集

3) 表紙のデザインを変更した(1月)。月報だよりの拡大により紙面の充実を図った。経営努力の一環として、次年度からDTPに取り組むことを決定した。

天体発見賞選考

4) 天体発見賞を山本稔, 菅野松男, 金津和義, 串田嘉男, 村松修, 和久田実, 高見沢今朝雄の各氏に, 天体発見功労賞を串田麗樹氏に授与した。(5月) 天体発見賞を高見沢今朝雄(2), 桜井幸夫, 多胡昭彦, 中村正光, 串田麗樹の各氏に, 天体発見功労賞を西村栄男氏に授与した。(3月)

内地留学奨学生選考

5) 内地留学奨学金を大金要次郎, 西村昌能両氏に支給した。(10月)

研究奨励賞選考

6) 第6回日本天文学会研究奨励賞を山下卓也, 伊藤智義両氏に授与した(10月)。なお11名より総額123,000円より新たな寄付があった。

早川幸夫基金選考

- 7) 早川基金による若手研究者の旅費の支給について公募を行い、選考の結果、計11名、135万円の援助を行った(4月2名、7月6名、10月2名、1月1名)。2名より301万円の寄付があった。

年会の開催

- 8) 年会の持ち方の検討を進め、アンケートを実施し、その結果に基づき、年会発表形態の試行を行った。平成7年度秋季年会以降に反映できる結論をまとめつつある。

- 9) 文部省科研費、成果報告(B)より、1,230,000円を受け、秋季年会開催時の公開講演会を行った。定款ワーキンググループ

- 10) 定款改訂の必要性、緊急性を会員にアピールし、新定款の具体的な文案作りを開始した。

VIDEO教材ワーキンググループ

- 11) 宇宙科学研究所製作のビデオ「ブラックホール」の製作に加わった。日立アプリケーションズシステムズと天文教育マルチメディアソフトを開発中である。

その他

- 12) シューメーカー・レーバー第9彗星の木星面衝突を世界で最初に予報した、中野圭一氏に日本天文学会特別功労賞を授与した。(10月)。
- 13) 平成6年度学術交流費により177名(5月)、200名(10月)に対し旅費補助を行った。なお、平成7年春季年会分に関しては、早川基金から平成8年の返済を約して借入れ、補正予算を組んだ。
- 14) 平成6年度科学研究費配分審査委員第1段、第2段委員の選挙を行い、日本学術会議に推薦した(10月)。選挙方法を改善して、辞退者が生じないようにした。
- 15) 名簿改訂の年度にあたり、内容の変更、充実をはかっている。
- 16) 国際会議、国内会議及びシンポジウムの協賛・後援、国立天文台公開日の後援を行った。(平成6年4月～平成7年3月)
- 17) 平成9年度国際天文学連合(IAU)京都総会の共同主催を日本学術会議に申請した。(12月)
- 18) 年会講演からトピックスを選び、公開講演の内容とともに報道機関に資料を提供した。(5月、10月、3月)
- 19) 本会の推薦により、第11回井上物理学賞を小山勝二氏が受賞している。第2回日産科学賞を福井康雄氏が受賞している。
- 20) 会員数は次表の通りである。

	特別会員(学生会費)	通常会員	賛助会員	合計
1994年3月31日	1,026(230)	1,695	53	2,774
入会	111	56	2	169
退会	24	86	2	112
移籍(増)	57	18	0	75
移籍(減)	18	57	0	75
1995年3月31日	1,152(319)	1,626	53	2,831

以上

(付録2)

社団法人 日本天文学会

平成6年度 収支計算書

(平成6年4月1日～平成7年3月31日)

【一般会計】収支計算の部

収入の部

(単位:円)

勘定科目	予算額	決算額
大・中・小科目		
基本財産運用収入	210,000	125,000
基本財産利息収入	210,000	125,000
会費収入	29,490,000	31,707,505
特別会員会費収入	16,190,000	18,880,600
一般会費収入	13,700,000	14,508,400
学生会費収入	2,490,000	4,372,200
通常会員会費収入	13,200,000	12,826,905
賛助会員会費繰入収入	100,000	0
事業費収入	26,397,000	30,182,743
欧文研究報告発行事業収入	11,638,000	14,112,344
購読料	5,000,000	4,972,424
掲載料	4,050,000	5,417,120
刷代	2,588,000	3,722,800
天文月報発行事業収入	6,404,000	7,371,891
購読料	1,217,000	1,342,704
別刷代	520,000	503,540
広告料	4,667,000	5,525,647
年会事業収入	8,355,000	8,698,508
予稿集頒布収入	3,000,000	2,864,078
参加費	3,955,000	4,784,400
雑収入	1,400,000	1,050,030
印税収入	1,680,000	3,775,168
星座早見印税収入	1,500,000	1,900,000
その他の印税収入	180,000	1,875,168
補助金収入	5,080,000	5,510,000
文部省刊行補助金収入	3,850,000	4,280,000
公開講演会補助金収入	1,230,000	1,230,000
寄付金収入	450,000	490,763
寄付金収入	450,000	490,763
雑収入	820,000	1,406,583
受取利息	20,000	42,251
特別企画収入	500,000	734,457
その他の収入	300,000	629,875
繰入金収入	452,078	452,078
平成3年度分消費税繰入	452,078	452,078
当期収入合計(A)	64,579,078	73,649,840
前期繰越収支差額	1,762,849	1,762,849
収入合計(B)	66,641,927	75,412,689

(注) 予算額は平成6年度臨時総会(10月13日)にて承認された補正後予算である。

支出の部

【特別会計】

収支計算の部

(単位：円)

大・中・小科目	勘定科目	予算額	決算額
事業費		44,755,000	45,219,227
欧文研究報告発行事業費		17,545,000	20,282,031
直接出版費		11,015,000	12,789,842
別刷印刷費		830,000	2,082,461
人謝件費		3,250,000	3,034,369
送料運搬費		720,000	883,150
消耗品費		1,550,000	1,336,549
雑費		170,000	155,660
		10,000	0
天文月報発行事業費		17,990,000	15,876,332
直接出版費		12,400,000	10,787,510
別刷印刷費		520,000	371,000
人謝件費		500,000	406,519
送料運搬費		920,000	998,020
消耗品費		3,000,000	2,866,342
雑費		600,000	446,941
		50,000	0
年会事業費		9,220,000	9,060,864
予稿集印刷費		4,500,000	3,458,735
送料運搬費		950,000	1,187,804
消耗品費		1,250,000	550,951
雑費		920,000	1,959,524
		1,000,000	1,199,517
		600,000	704,333
管理費		15,670,000	14,275,996
人件費		6,500,000	5,942,861
謝金		300,000	478,313
会議費		400,000	416,848
負担金		120,000	102,000
租税公課		950,000	1,110,932
旅費		1,200,000	1,651,610
送金		800,000	721,418
什器備品		1,000,000	191,240
消耗品費		700,000	682,713
印刷製本		1,000,000	136,450
光熱水料		80,000	100,409
賃借料		1,120,000	1,200,971
保険料		90,000	69,508
諸手数		200,000	207,377
書籍購入		110,000	663,362
特別企画		950,000	443,884
雑費		150,000	156,100
未収会費回収不能		0	255,800
未収会費回収不能		0	255,800
特定預金支出		180,000	180,500
退職給与引当預金支出		180,000	180,500
予備費		5,736,927	0
予備費		5,736,927	0
当期支出合計 (C)		66,341,927	59,931,523
当期収支差額 (D = A - C)		△1,762,849	13,718,317
次期繰越収支差額 (E = B - C)		0	15,481,166

会計種目	科目	予算額	決算額
学術交流費	収入の部		
	賛助会員会費収入	2,000,000	2,100,000
	受取利息	10,000	2,500
	早川より繰入収入	1,000,000	500,000
	前期繰越収支差額	258,049	258,049
	収入合計	3,268,049	2,860,549
	支出の部		
	学術交流費	3,000,000	2,401,230
	雑費	7,000	5,509
	支出合計	3,007,000	2,406,739
次期繰越収支差額	261,049	453,810	
内地留学奨学金	収入の部		
	基本財産利息収入	180,000	112,141
	前期繰越収支差額	171,479	171,479
	収入合計	351,479	283,620
	支出の部		
	奨学金支出	240,000	250,000
	雑費	10,000	1,236
	支出合計	250,000	251,236
	次期繰越収支差額	101,479	32,384
	研究奨励賞	収入の部	
奨励賞資金収入		400,000	236,200
受取利息		2,500	17,158
前期繰越収支差額		5,101,223	5,101,223
収支合計		5,503,723	5,354,581
支出の部			
奨励賞支出		100,000	300,000
雑費		10,000	2,138
支出合計		110,000	302,138
次期繰越収支差額		5,393,723	5,052,443
早川幸男基金	収入の部		
	寄付金収入	3,150,000	3,010,000
	受取利息	140,000	196,904
	前期繰越収支差額	11,400,676	11,400,676
	収入合計	14,690,676	14,607,580
	支出の部		
	研究補助支出	1,500,000	1,400,000
	学術へ繰入支出	1,000,000	500,000
	雑費	10,000	7,210
	支出合計	2,510,000	1,907,210
次期繰越収支差額	12,180,676	12,700,370	

(注) 未収会費回収不能額は1992年度以前のものである。

社団法人 日本天文学会
貸借対照表
 平成6年度(平成7年3月31日)

【一般会計】

(単位：円)

資 金 の 部		負債及び正味財産の部	
勘 定 科 目	金額	勘 定 科 目	金額
大科目・中科目		大科目・中科目	
流動試算		流動負債	
現金預金	22,537,867	未払金	81,589
未収会費	2,007,405	預り金	1,605,731
未収金	2,239,069	前受金	131,120
仮払金	197,020	前受会費	10,281,755
有価証券	600,000	流動負債合計	12,100,195
流動資産合計	27,581,361	固定負債	
固定資産		退職給与引当金	1,515,090
投資有価証券	5,000,000	負債合計	13,615,285
その他の固定資産		正味財産	22,946,121
什器備品	922,433	(うち、基本金)	(5,000,000)
貯蔵金	1,542,522	(うち、当期増加額)	(13,561,784)
退職給与引当預金	1,515,090	正味財産合計	22,946,121
固定資産合計	8,980,045	負債及び正味財産合計	36,561,406
資産合計	36,561,406		

【特別会計】

学 術 交 流 費			
流動資産		正味財産	
現金預金	453,810	次期繰越収支差額	453,810
		(うち当期増加額)	(195,761)
資産合計	453,810	正味財産合計	453,810
		負債及び正味財産合計	453,810
内 地 留 学 奨 学 金			
流動資産		正味財産	
現金預金	32,384	基本金	4,310,000
その他の固定資産		次期繰越収支差額	32,384
投資有価証券	4,310,000	(うち当期減少額)	(139,095)
資産合計	4,342,384	正味財産合計	4,342,384
		負債及び正味財産合計	4,342,384
研 究 奨 励 費			
流動資産		正味財産	
現金預金	5,052,443	次期繰越収支差額	5,052,443
		(うち当期減少額)	(48,780)
資産合計	5,052,443	正味財産合計	5,052,443
		負債及び正味財産合計	5,052,443
早 川 幸 男 基 金			
流動資産		正味財産	
現金預金	3,200,370	次期繰越収支差額	12,700,370
投資有価証券	9,500,000	(うち当期増加額)	(1,299,694)
資産合計	12,700,370	正味財産合計	12,700,370
		負債及び正味財産合計	12,700,370

(注) 基本財産(基本金)たる資産：投資有価証券 9,310,000円

預り金のうち消費税 1,521,606円

(うち当期消費税) 607,326円

監査の結果、収支計算書及び貸借対照表が正しいことを証明いたします。

平成7年4月25日 会計監査 小倉勝男 田中 濟

社団法人 日本天文学会
平成6年度 一般会計正味財産増減計算書
(平成6年4月1日～平成7年3月31日)

増加の部 (単位:円)

勘定科目 大科目・中科目	決算額
増加の部	
資産増加額	
退職引当預金増加額	214,916
貯蔵品増加額	34,867
当期収支差額	13,718,317
増加額合計 (F)	13,968,100
減少の部	
資産減少額	
什器備品償却額	191,400
負債増加額	
退職給与引当金繰入額	214,916
減少額合計 (G)	406,316
当期正味財産増減額 (H = F - G)	13,561,784
前期正味財産 (I)	9,384,337
期末正味財産 合計 (J = I + H)	22,946,121

社団法人 日本天文学会事業計画書

1995年度(1995年4月1日から1996年3月31日まで)

ア) 出版物の刊行

1) 欧文研究報告 (Publications of the Astronomical Society of Japan)

第47巻2号～第48巻1号, 隔月刊, A4版. 発行部数1650, 年間総ページ900を予定. 事務能力の強化のため, 人件費を20万円増額する.

2) 天文月報

第88巻4号～第89巻3号, 月刊B5版. 発行部数3200(4, 5, 6, 7号は3400), 毎号52ページを予定. 入稿から印刷までの時間を短縮するため, DTP (Desk Top Publishing) 化を進める. そのために人件費を50万円増額する(1年限り).

3) 講演予稿集

春季・秋季の年会の講演予稿集各1冊, 発行部数700を予定.

イ) 年会の開催

1) 秋季季年会

会期: 10月
会場: 新潟大学
公開講演会: 2件を予定

2) 春季年会

会期: 3月
会場: 神戸大学
公開講演会: 2件を予定

ウ) IAU 総会 (日本学術会議と共同主催) 開催準備

一般会計より上限として30万円を支出. 具体的な支出項目に関しては, 組織委員会と協力して今後検討の予定.

エ) 総会, 評議員会, 理事会

1) 総会

春季年会会場にて開催予定. 秋季年会会場でも臨時総会の開催が必要.

2) 評議員会

5月中旬, 2月中旬, 春季及び秋季年会会場にて開催予定.

3) 理事会

8月下旬, 1月中旬, 春季及び秋季年会会場にて開催予定.

オ) 委員会, ワーキンググループの開催

1) 評議員選挙管理委員会

委員長: (谷川清隆)

2) 欧文研究報告編集理事会

編集長: (桜井 隆)

3) 天文月報編集理事会

編集長: (関口和寛)

4) 天体発見賞選考委員会

幹事: (庶務理事)

5) 年会実行委員会

委員長: (田中培生)

6) 内地留学奨学生選考委員会

委員長: (理事長)

7) 研究奨励賞選考委員会

委員長: ()

8) 早川幸夫基金(若手海外学術研究援助金)選考委員会

委員長: (小山勝二)

9) 定款改訂ワーキンググループ

幹事: 唐牛 宏

10) 顕彰制度ワーキンググループ

幹事: (庶務理事)

11) 「天文で何を教えるか」検討ワーキンググループ

幹事: ()

12) ビデオ教材ワーキンググループ

幹事: 戒崎俊一

13) TEX ワーキンググループ

幹事: 有本信雄

14) ネットワークワーキンググループ

幹事: 花輪知幸

カ) 事務・管理費

1) 事務処理合理化のためのOA化に100万円を支出する予定.

2) 1995年度に予想される事務所の移転に伴う費用として, 50万円を支出する予定.

月報だより

3) 特別事業 (スライド集発行, ビデオ販売など) に 100 万円を支出する予定。

キ) 特別会計

1) 学術交流費

特別会員の学生会費対象者の年会出席に対し, 総額 200 万円の援助を行なう。

2) 内地留学

1 名, 年間 24 万円の補助を予定。一般会計より 15 万円を暫定的に借入れ。今後の運用については今後, 議論の予定。

3) 研究奨励賞

1 名 (賞金 10 万円) を予定。

4) 若手海外研究補助金 (早川幸男基金)

総額 150 万円を予定。

〔付録 3〕

平成 7 年度 収支予算書

(平成 7 年 4 月 1 日 ~ 平成 8 年 3 月 31 日)

【一般会計】

I] 収入の部

(単位: 円)

勘定科目	予算額	前年度 予算額
大・中・小科目		
基本財産運用収入	130,000	210,000
基本財産利息収入	130,000	210,000
会費収入	32,000,000	29,490,000
特別会員会費収入	19,500,000	16,190,000
一般会費収入	14,500,000	13,700,000
学生会費収入	5,000,000	2,490,000
通常会員会費収入	12,500,000	13,200,000
賛助会員会費繰り入れ収入	0	100,000
事業収入	26,350,000	26,397,000
欧文研究報告発行事業収入	13,600,000	11,638,000
購読料	5,000,000	5,000,000
掲載料	5,500,000	4,050,000
別刷代	3,100,000	2,588,000
天文月報発行事業収入	6,750,000	6,404,000
購読料	1,100,000	1,217,000
別刷代	250,000	520,000
広告料	5,400,000	4,667,000
年会事業収入	6,000,000	8,355,000
予稿集領布収入	2,000,000	3,000,000
参加費	3,200,000	3,955,000
雑収入	800,000	1,400,000
印税収入	2,900,000	1,680,000
星座早見印税収入	1,900,000	1,500,000
その他印税収入	1,000,000	180,000
補助金収入	7,100,000	5,080,000
文部省刊行物補助金収入	4,300,000	3,850,000
公開講演会補助金収入	2,800,000	1,230,000
寄付金収入	450,000	450,000
寄付金収入	450,000	450,000
雑収入	1,073,000	820,000

受取利息	23,000	20,000
特別企画収入	550,000	500,000
その他の収入	500,000	300,000
繰入金収入	470,033	452,078
繰入金収入	470,033	452,078
当期収入合計 (A)	70,473,033	64,579,078
前期繰越収支差額	15,481,166	1,762,849
収入合計 (B)	85,954,199	66,341,927

II] 支出の部

(単位: 円)

勘定科目	予算額	前年度 予算額
大・中・小科目		
事業費	46,850,000	44,755,000
欧文研究報告発行事業費	20,800,000	17,545,000
直接出版費	13,440,000	11,015,000
別刷印刷費	950,000	830,000
送件費	3,500,000	3,250,000
送料	1,100,000	720,000
運搬費	1,450,000	1,550,000
消耗品費	350,000	170,000
雑費	10,000	10,000
天文月報発行事業費	17,850,000	17,990,000
直接出版費	12,000,000	12,400,000
別刷印刷費	300,000	520,000
送件費	1,000,000	500,000
送料	900,000	920,000
運搬費	3,000,000	3,000,000
消耗品費	600,000	600,000
雑費	50,000	50,000
年会事業費	7,900,000	9,220,000
予稿集印刷費	2,500,000	4,500,000
送件費	800,000	950,000
送料	1,300,000	1,250,000
運搬費	900,000	920,000
消耗品費	1,300,000	1,000,000
雑費	1,100,000	600,000
IAU 総会開催事業費	300,000	0
準備費	300,000	0
管理費	19,905,000	15,670,000
人件費	7,200,000	6,500,000
謝会費	600,000	300,000
会議費	600,000	400,000
負担金	120,000	120,000
租税公課	1,200,000	950,000
旅費	1,500,000	1,200,000
送金	900,000	800,000
什器備品	2,400,000	1,000,000
消耗品	700,000	700,000
印刷製本	1,200,000	1,000,000
光熱水	120,000	80,000
賃借料	1,120,000	1,120,000
保険料	95,000	90,000
諸手数	250,000	200,000
書籍購入	500,000	110,000
特別企画費	500,000	950,000
内地留学奨学金へ繰入	150,000	0
雑費	750,000	150,000
特定預金支出	190,000	180,000

退職給与引当預金支出	190,000	180,000
予備費	19,009,199	5,736,927
予備費	19,009,199	5,736,927
当期支出合計 (C)	85,954,199	66,341,927
当期収支差額 (A)-(C)	△ 15,481,166	△ 1,762,849
次期繰越収支差額(B)-(C)	0	0

【特別会計】 (単位：円)

会計種目	科目	予算額	前年度予算額
収入の部			
学術交流費	賛助会員会費収入	2,100,000	2,000,000
	受取利息	2,500	10,000
	早川より繰入収入	0	1,000,000
	前期繰越収支差額	453,810	258,049
	収入合計	2,556,310	3,268,049
	支出の部		
学術交流費	学術交流費	2,000,000	3,000,000
	予備費	3,000	7,000
	支出合計	2,003,000	3,007,000
	次期繰越収支差額	553,310	261,049
	内地留学奨学金		
収入の部			
内地留学奨学金	基本財産利息収入	100,000	180,000
	一般会計より繰入れ	150,000	0
	前期繰越収支差額	32,384	171,479
	収入合計	282,384	351,479
支出の部			
内地留学奨学金	奨学金支出	250,000	240,000
	予備費	1,600	10,000
	支出合計	251,600	250,000
	次期繰越収支差額	30,784	101,479
研究奨励賞			
収入の部			
研究奨励賞	資金	200,000	400,000
	受取利息	2,500	2,500
	前期繰越収支差額	5,052,443	5,101,223
	収入合計	5,254,943	5,503,723
支出の部			
研究奨励賞	研究奨励賞	100,000	100,000
	予備費	2,000	10,000
	支出合計	102,000	110,000
	次期繰越収支差額	5,152,943	5,393,723
早川幸男基金			
収入の部			
早川幸男基金 (若手海外学術研究援助基金)	寄付収入	100,000	3,150,000
	受取利息	10,000	140,000
	前期繰越収支差額	12,700,370	11,400,676
収入合計	12,810,370	14,690,676	
支出の部			
早川幸男基金 (若手海外学術研究援助基金)	研究補助	1,500,000	1,500,000
	学術へ繰入支出	0	1,000,000
	予備費	10,000	10,000
	支出合計	1,510,000	2,510,000
次期繰越収支差額	11,300,370	12,180,676	

日本天文学会 1995 年度秋季年会の開催と講演の申し込みについて

秋季年会は新潟大学(新潟市)で10月5日(木)から10月7日(土)までの3日間開催の予定です。プログラムは9月20日発行の天文月報10月号に掲載されます。

講演の申し込みは「〒181 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 日本天文学会年会係」あてに封筒の表に「講演申込書在中」と朱書の上8月14日(月)までに必着するよう規定の申込用紙を用いてお送り下さい。講演は「口頭発表(講演10分、質疑応答5分)」、「口頭発表(3分、質疑応答なし)+ポスター発表」、及び「ポスター発表」にて行いますので、希望の発表形態を選択して下さい。口頭発表(3分)の質疑応答は数講演を一括して時間を設けて行います。今回は口頭発表(10分)も希望通り行う予定です。また、筆頭講演者の複数講演が可能です。ただし、2つ目以降の講演はポスター発表とします。

Post-deadline papers も受け付けます。勿論これは、単に講演の締切日に間に合わなかったものではなく、IAU Circular に掲載されるような緊急性・トピックス性に富んだものに限定し、年会直前(10月2日(月))まで受け付けます。講演方法はポスター発表となります。

全ての講演の申し込みには講演登録料が必要になりますのでお支払い下さい。ただし、特別会員の方は1講演につきのみ講演登録料が免除となります。また、いままでは年会講演を行ったことがなく、今回が初回の講演申し込みである方も、通常会員、会員外を問わず、1講演につき講演登録料が免除となります。

講演分野の分類は以下の通りです。申込み用紙の裏面も参照の上、ご記入下さい。

位置天文学、天体力学、太陽系、太陽、恒星、星形成、星間現象、銀河、活動銀河核、銀河団、宇宙論、地上観測機器、飛翔体観測機器、情報処理、天文教育、その他

観測機器を2つに分けました。なお申し込みの分野の分類に続けて、プログラム編成のため、内容を最もよく表すキーワードをご記入下さい(例：恒星(内部振動))。

講演申込者で年会出席旅費の補助を希望される会員は支部理事を通じて8月14日(月)までに必着するよう「国立天文台内 日本天文学会理事長」あてに申し込んで下さい。但し申込みのできる人は、1994年度会費納入済みの人で、原則として、連名の場合でも筆頭講演者であり、正式の給与を受けていない特別会員学生会費納入者に限ります。

講演申込み・発表に際しては特に次の事項を厳守して

下さい。

1. 講演内容は完成度の高い研究とする。
 2. 連名の場合、発表者を講演著者の筆頭におく。
 3. 複数講演申し込みの場合は2講演目以降はポスター発表に限る。
 4. 口頭発表においては、スライドまたはオーバーヘッドプロジェクターを使用すること。
 5. ビデオプロジェクターの使用(口頭発表のみ可能)を希望される方は年会申込み期限までに連絡すること。
- 年会は、主として会員の研究発表や情報交換等を通じて天文学の発展に寄与するものです。会員外の方で講演を希望される方には、申込みの際に入会をお勧めしております。

年会中に集会のため、会議室の利用を希望される方は前もって、新潟大学 藤本正行(電子メール:fujimoto@ed.niigata-u.ac.jp, 電話番号:0252-62-7148, ファックス:0252-63-1277)までご連絡下さい。

参加費等

会員種別	特別会員	特別(学生)	通常会員	会員外
年会参加費	3,500円 *3,000円	1,800円 *1,500円	3,500円 *3,000円	4,000円
年会講演登録料	*3,000円	*3,000円	3,000円	5,000円
年会予稿集	2,000円 *1,800円	2,000円 *1,800円	2,000円 *1,800円	2,000円

- 1) 8月14日以前に申し込まれた方は*の金額となります。
- 2) *は1講演あたりの講演登録料です。ただし、特別会員は1講演分が免除されます。また、年会講演が今回初めての方も免除されます。
- 3) 予稿集代は特別会員会費には含まれていません。必要な方は別途申し込んで下さい。

申し込み方法

本誌挟み込みの申し込み用紙(郵便振替用紙の裏)に必要な事項をご記入下さい。

- (1) 申し込みたい項目の金額と合計額を通信欄に記入して下さい。
- (2) 送金額と住所氏名をご記入下さい。
- (3) 出席を取り消された場合などの年会参加費など、申し込み者による変更の場合は一切払い戻し致しません。

(年会実行委員会 田中)

会場(新潟大学)までのご案内

JR:新潟駅から越後線(所要時間20分)新潟大学前駅下車。徒歩10分
 バス:近畿ツーリスト新潟支店前バス停(16番乗場)西小針経由 新潟大学・内野行(所要時間50分)新大西門下車
 タクシー:JR越後線 内野駅(新潟大学前駅の次)からが便利。

秋季天文学会宿泊のご案内

平成7年10月5日(木)~10月7日(土)新潟大学で開催されます天文学会の宿泊を、新潟大学生協がお世話させていただきますことになりました。ここにご案内させていただきます。

10月は秋の観光季節となり、新潟市内のホテルも早くから予約が入ってきますので、早めの申込をお勧め致します。尚、新潟大学近辺はホテル・旅館等はありません。宿泊先は市内中心部・駅近辺になります。

●宿泊ホテル及び料金

ニイガタステーションホテル

1泊(サービス料込み・税別)
 シングル 6,000円
 ツイン 11,000円
 場所:JR新潟駅前で交通便利

マルコーイン新潟

1泊朝食付き(サービス料込み・税別)
 シングル 7,000円
 ツイン 14,000円
 場所:JR新潟駅から徒歩5分。

ホテルハイマート

1泊(サービス料込み・税別)
 シングル 6,160円
 ツイン 8,690円
 場所:JR新潟駅から徒歩2分

新潟パークホテル

1泊(サービス料込み・税別)
 シングル 6,500円
 ツイン 11,000円
 JR新潟駅から徒歩5分。

*上記のホテルを10月4日~7日まで4泊分確保しております。

●お申込方法及び申込期限

ご宿泊を希望の方は下記の事項を記入されて郵送またはFAXで新潟大生協サービスセンターまでお申込ください。

①氏名

- ②連絡先 住所/電話番号(自宅/勤務先)/FAX
- ③宿泊希望日 10月4日/5日/6日/7日の何れか
- ④宿泊希望ホテル名
ニイガタステーションホテル/マルコーイン新潟
潟/ホテルハイマート/新潟パークホテル
- ⑤部屋タイプ シングル/ツイン
- ⑥学会名

※郵便先

〒950-21 新潟市五十嵐2の町8050
新潟大学生協サービスセンター(担当 亀山)
TEL 025-262-6245
FAX 025-262-7347

申込後、「予約確認書・振込案内・ホテル案内」を郵送またはFAXいたしますので、到着後宿泊代金を指定の口座にお振込ください。

※申込期限は8月31日までをお願いいたします。

●取消料について

宿泊予約確認後、宿泊を取り消される場合は下記の料率で取消料がかかります。

- 不泊・当日 ……………100%
- 前日 ……………60%
- 2～9日前 ……………20%
- 10～20日前 ……………10%
- 21日前 ……………無料

PASJ「Note」の廃止について

PASJにはこれまで、本論文、レターの他に、「Note」という短い論文が掲載されることがありました。しかし、PASJの表紙裏の投稿規定を見ていただければわかるように、「Note」という区分は実は設けられておらず、他の雑誌の例を参考に、慣用的に受け付けていたというのが実態です。そして、ともすると著者・査読者双方に「Note」を低レベルの論文とみなす傾向があり、取扱いの基本的考え方をはっきりさせる必要があると編集部では判断しました。短くて緊急性の高い論文については、1990年に「レター」が導入され、既に定着したと言えます。そこで、「Note」は廃止することとしました。念のために付け加えますと、短いというだけの理由で論文の掲載を拒否することはありません。短い論文でも、本論文として従前通り受け付け、審査いたします。

PASJ 編集部

天文月報海外速送サービス

海外在住会員の方々が天文月報を速く入手できるように、航空便の取扱サービスを有料で行っております。ご希望の方は下記の要領にしたがってお申し込み下さい。

※月報郵送体制の見直しにより今回申込分より、全て航空便といたしました結果、サービス料が改訂されております。ご注意ください。

1. サービス料金：1年間**2900円**。年会費と併せて1年ごとに納入して下さい。
2. 申し込み：原則として年1回(4月期のみ)受け付けとします。締切前に学会へ届くように、送付先・氏名・会員番号を明記の上、書面でお申し込み下さい。書式は問いません。ただし、会費納入後に渡航が決まった方のための便宜措置として、10月期を設けます。
4月期＝**2月末日**までに次年会費と併せて前納して下さい。
10月期＝7月31日までにサービス料金を前納して下さい(会費既納のこと)。
[これは、年度途中で渡航が決まった方だけの経過措置サービスです。さらに継続を希望する場合は翌年の4月期に忘れずにお申し込み下さい。料金は1450円です。]
3. サービス期間：1年単位。4月号から発送します。10学期の場合は10月号から半年間発送します。
4月期＝4月号～次年3月号(例：1995年1月31日までに申し込んだ方は1995年3月20日発行の4月号～1996年2月20日発行の3月号)に適用します。
10学期＝10月号～次年3月号(例：1995年7月31日までに申し込んだ方は1995年9月20日発行の10月号～1996年2月20日発行の3月号)に適用。
4. 更新：申し込み締切までにご連絡のない場合は、次期のサービスを打ち切り、船便とします。**自動更新はいたしません。**
5. 清算：サービス期間途中で日本へ帰国するなどの理由でサービスを受ける必要がなくなった場合は、帰国後にお申し出になった時点で送料の清算をいたします。送付先が変更になった場合は至急ご連絡下さい。
6. 問い合わせ：ご不明な点は学会事務室までお問い合わせ下さい。(本誌奥付参照)。

注. 本便サービスの申し込みをされない方は従来どおり、送料学会負担で船便送付とします。

(天文月報編集委員会、会計理事)

人事公募

標準書式：なるべく、以下の項目にしたがってご投稿下さいませようお願いいたします。結果は必ずお知らせください。

1. 募集人員(ポスト・人数など)、2. (1)所属部門・所属講座、(2)勤務地、3. 専門分野、4. 職務内容・担当科目、5. (1)着任時期、(2)任期、6. 応募資格、7. 提出書類、8. 応募締切・受付期間、9. (1)提出先、(2)問合せ先、10. 応募上の注意、11. その他(待遇など)

宇宙科学研究所教官

このたび、下記の要領により教官公募を行いますので、広く適任者の推薦、応募を求めます。

1. 教授 1名
2. (1)宇宙圏研究系 銀河進化物理学部門
(2)神奈川県相模原市由野台 3-1-1 宇宙科学研究所
3. 4. 主として、飛翔体を用いた赤外線天文学研究において関連部門と協力してその推進、発展に指導的役割を果たし、特に近い将来予定されている赤外線天文衛星計画の推進に積極的に参加し、計画遂行に中核的役割を果たしていただける方。また、大学共同利用機関である本研究所の職務を理解し、共同利用諸計画の遂行に積極的な役割を果たしていただける方を希望する。尚、関連する部門の研究者として現在、赤外線天体物理部門に奥田治之教授、村上 浩助教授、中川貴雄助手、川田光伸助手が、また共通基礎研究系宇宙計測システム部門には芝井 広助教授が在籍している。
5. (1)決定後できるだけ早い着任
7. (1)略歴 (2)研究歴 (3)論文リスト及び主要論文の別刷り (4)研究計画書 (自薦の場合) (5)他薦の場合、推薦書2通、自薦の場合、本人について意見を述べられる人2名の氏名と連絡先
8. 1995年9月30日(土) 必着
9. (1)〒229 神奈川県相模原市由野台 3-1-1
宇宙科学研究所 庶務課人事係
電話 (代表) 0427-51-3911
(2)同上研究所内
宇宙圏研究系赤外線天体物理学部門 奥田治之
内線 2601
FAX. 0427-59-4253
10. 封筒の表に「教授応募(推薦)書類在中」と朱で明記して下さい。
選考は、宇宙科学研究所運営協議委員会において行います。
応募者に適格者がいない場合には決定を保留することがあります。

国立天文台地球回転研究分野教員

1. 助手1名
2. (1)水沢観測センター
(2)岩手県水沢市
3. 地球惑星科学
4. 地球回転研究系・水沢観測センターでは、電波位置天文学、地球力学、月・惑星科学等のさらなる発展を目指し、国際的な研究活動を展開するとともに、測月 VLBI 計画と VERA 計画の2つのプロジェクトを推

進しています。これらの計画に必要な開発研究にも貢献し、新しい研究の発展に積極的な役割を果たす若い研究者を求めます。

5. (1)決定後なるべく早い時期
(2)任期はありません。
6. 大学院修士課程修了またはそれと同等以上の方
7. (1)履歴書、(2)研究歴、(3)研究論文リスト及び主要論文別刷り(共著の場合はその役割分担)、(4)研究計画と本人について意見を述べられる人2名の氏名と連絡先
8. 1995年8月31日(日)必着
9. (1)〒181 東京都三鷹市大沢 2-21-1
国立天文台台長 小平桂一
(2)国立天文台地球回転研究系 横山紘一
TEL: 0197-22-7132
FAX: 0197-22-7120
10. 封筒に「水沢観測センター助手応募書類在中」と朱書し、簡易書留でお送りください。選考は、国立天文台運営協議委員会にて行います。

国立天文台教官

1. 助手1名
2. (1)大型光学赤外線望遠鏡計画推進部
(2)当面、東京都三鷹市(将来はハワイ勤務もありうる)
3. 光学赤外線天文学及び関連分野
大型光学赤外線望遠鏡計画推進部は、光学赤外線天文学研究系、天文機器開発実験センターと共に、ハワイに設置する「すばる」望遠鏡の建設を推進しています。「すばる」望遠鏡計画の推進と観測的研究に強い意欲を持って、望遠鏡の立ち上げ、天体画像処理システム、制御ソフトの開発、観測装置の開発・製作等の分野で、責任を分担する若手研究者1名を求めます。
5. (1)決定後なるべく早い時期
6. 大学院修士課程修了、またはそれと同等以上の方
7. (1)略歴書、(2)研究歴(これまでの研究内容の概要を含む)、(3)研究論文リスト、及び主要論文別刷、(4)研究計画書、(5)本人について意見を述べられる人2名の氏名と連絡先、(6)他薦の場合には推薦書の他に、前記事項(1)~(5)の概要がわかる書類
8. 締切: 1995年9月30日 必着
9. (1)〒181 東京都三鷹市大沢 2-21-1
国立天文台台長 小平桂一
(2)〒181 東京都三鷹市大沢 2-21-1
国立天文台大型光学赤外線望遠鏡計画推進部主幹家 正則 TEL 0422-34-3703
10. 封筒の表に「望遠鏡計画推進部助手人事応募書類在中」と朱記し、簡易書留でお送り下さい。選考は国立

天文台運営協議委員会において行います。なお、外国籍の方の場合、法令に基づいて任期を定める場合があります。

国立天文台太陽物理学研究系教官

1. 助教授または助手 1名
2. (1)所属部門：太陽物理学研究系・太陽大気部門
(2)東京都三鷹市
3. 太陽物理学
4. 太陽物理学研究系では、地上・スペースからの太陽観測、及び理論的研究を行っており、さらに将来の観測装置として、新たな太陽観測衛星および太陽周期活動望遠鏡を計画しています。これらの観測装置の開発・データの解析などを中心に上記の研究活動に積極的に参加し、太陽物理学の研究を意欲を持って進める助教授または助手を求めます。
5. (1)平成7年12月1日以降なるべく早い時期
6. 大学院修士課程修了、またはそれと同等以上の方。
7. (1)履歴書、(2)研究歴(これまでの研究内容の概要を含む)、(3)論文リスト及び主要論文の別刷、(4)研究計画書、(5)本人について意見を述べられる人2人の氏名と連絡先。他薦の場合は、(1)～(4)がわかるような推薦書。
8. 応募締切：平成7年8月31日(日)必着
9. (1)〒181 三鷹市大沢 2-21-1
国立天文台 台長 小平桂一
(2)国立天文台太陽物理学研究系主幹 桜井 隆
電話 0422-34-3716
10. 応募上の注意：封筒の表に「太陽物理人事応募書類 在中」と朱書きし、簡易書留でお送り下さい。選考は国立天文台運営協議委員会において行います。

和歌山県川辺町天文公園職員

(平成8年5月～7月オープン予定)

1. 天文台職員 1名
プラネタリウム職員 1名
2. (2)和歌山県日高郡川辺町
4. 天文公園開設準備に引き続き公共天文台全般にわたる業務を担当
5. (1)平成7年10月1日(予定)
6. ①高卒以上の学歴を有し天体の観測的研究・教育・普及の総ての分野に興味と意欲があり、一般大衆に星空案内、アマチュアの指導育成が出来る者、更にコンピュータープログラミング情報通信等の特技を持ち公園運営の総てに対応出来る者。
②、①と同等以上と認められる者
7. 市販の履歴書に必要事項を記入の上、持参又は郵送により提出して下さい

8. 平成7年8月10日
9. (1)、(2)〒649-13 和歌山県日高郡川辺町土生160
川辺町役場開発振興課
天文公園担当 TEL 0738-22-1700 代表
22-2041 直通
FAX 22-8779

11. 地方公務員に準じた待遇予定
但し当分(平成7年度)は、臨時の賃金職員を予定

平成7年度外国人研究員(COE第3回分)候補者の推薦について

1. 平成7年度外国人研究員(COE第3回分)について、国内からの推薦を募集します。
2. 平成8年1月以降に招へいしようとするもので第2回目の申請に間に合わなかった者を対象とします。(招へい期間については、3か月以上1年以内となります。)
なお、今回の募集は、平成7年度(8年1月～同年3月)中に來台可能の者を対象としますので、特にご注意ください。
3. 推薦される候補者がある場合は、国立天文台所属の受入れ責任者にご相談の上、所定の申請書等に記入し、9月18日(月)まで管理部庶務課共同利用係(☎0422-34-3660)宛ご提出ください。(決定の時期：平成7年11月末頃)
なお、申請書等のお問い合わせは、同係まで。

研究助成

平成7年度東レ科学技術賞・研究助成

東レ科学振興会から次の概要が届きましたのでお知らせいたします。応募用紙は日本天文学会までご請求下さい。

- I. 東レ科学技術賞(概要)
 1. 候補者の対象……貴学協会に関する分野で、下記に該当するもの
 - (1)学術上の業績が顕著なもの
 - (2)学術上重要な発見をしたもの
 - (3)重要な発明をして、その効果が大きいもの
 - (4)技術上重要な問題を解決して、技術の進歩に大きく貢献したもの
 2. 科学技術賞……1件につき、賞状、金メダルおよび賞金500万円、2件前後。
 3. 候補者推薦件数……1学協会から2件以内
- II. 東レ科学技術研究助成(概要)
 1. 候補者の対象……貴学協会に関する分野で基礎的な研究に従事し、その研究の成果が科学技術の

進歩、発展に貢献するところが大きいと考えられる独創的、萌芽的研究を活発に行っている若手研究者。

2. 研究助成……総額1億3千万円前後、10件程度。
3. 候補者推薦件数……1学協会から2件以内。

III. 学会必着日 (I, IIとも)

……平成7年9月11日(月)

研究会・集案案内

第28回 月・惑星シンポジウム講演募集

標記シンポジウムを下記により開催します。月・惑星科学の分野全般においてわが国における最近の進展はめざましいものがありますので、本シンポジウムではそれらを反映した月・惑星の起源、進化、環境などに関連した多方面の研究成果の報告を歓迎します。

なお、将来の月・惑星探査ミッションに関連した講演は別に開催される太陽系科学シンポジウムでお願いします。この方面の研究に関心をお持ちのみなさまの多数の参加をお願いいたします。

記

期日：平成7年7月31日(月)～8月2日(水)

場所：宇宙科学研究所本館2階会議場

お問い合わせは、下記の世話人にお願いします。

清水幹夫 (0427-51-3911 内線2529)

水谷 仁 (0427-51-3911 内線2515)

訂正

天文月報第88巻7号306頁最後2行は302頁右側下から8行目の③の注釈の文章です。

編集後記

今月号の編集をもって天文月報編集部が交代します。前編集部が実施した紙面改革の仕上げを目指して活動に入った本編集部ですが、初年度は天文学会財政危機を乗り越えるためもあり、改善できなかった点が多々ありました。しかし、平成6年度には、表紙デザインの変更や書評欄の改訂、月報だよりの項目整理などを実施しました。発行の迅速化を目指して編集作業の電算化移行計画を企画しましたが、これは次期編集部にはありがたくない宿題となってしまったかもしれません。

日本天文学会にも電子メディアによる情報伝達の波がようやく訪れ、電子メール網 tennet が発足しましたが、天文月報による情報伝達は当分の間、日本天文学会で最も重要なメディアであり続けると考えています。「開かれた学会」を現実のものとするためには、会員相互や理事会・評議員会と会員間で必要十分なだけの情報を交換する必要があります。天文月報の負うべき役割は益々重要になってきています。この役割が、これまでの月報だよりの充実で、少しでも強化できたのであれば、うれしい限りです。

「理科離れ」が社会問題となる中、「天文学の発展と普及を目的とする」日本天文学会において会員諸氏に研究の成果を研究者が直接語る解説記事も一層の充実が必要と考えます。会員諸氏の要求は内容・レベルとも数年前に比べて著しく多様化しているのではないのでしょうか。この点に関する天文月報の対応は（著者の諸氏のご努力に負うところは当然の功績として）前編集部が実現した紙面改革によるところが大で、我々はそれを踏襲したにすぎません。しかし、現状は満足できるものではありません。本編集部では力及ばなかったところです。どのような内容・レベルの解説記事が望まれているのかなど天文月報の紙面・内容について、会員諸氏のご意見をうかがいたいと感じています。星空市場の利用が不十分であったなど具体的な反省点も多々あります。次期編集部にもうひとつ宿題を残してしまったのかもしれない。

2年間の編集部を終えて感じますことは、企画を考え具体化するには時間と労力とがともに必要だということです。新編集部には大胆かつ着実な天文月報の改善を期待しつつ、バトンを渡そうと思います。

(1993-94年度天文月報編集委員)

編集委員 関口和寛 (編集長), 末松芳法, 田代 信, 辻本拓司, 中川貴雄, 林 左絵子, 平野尚美, 宮坂正大
平成7年7月20日 発行人 〒181 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
印刷発行 印刷所 〒162 東京都新宿区早稲田鶴巻町565-12 啓文堂 松本印刷
定価700円(本体680円) 発行所 〒181 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
電話 (0422)31-1359 (FAX自動切換) 振替口座 東京 6-13595